



1. 交差点全景(夜景)
2. アーティゾン美術館外観
3. スキップフロア屋上庭園

日建連表彰2021



第62回BCS賞

ミュージアムタワー京橋

選定理由 【選考委員】
野城智也・国府田道夫・賀持剛一

旧ブリヂストンビルの哲学を継承し気軽に芸術文化にふれることができる美術館と、入居テナントの事業発展に寄与するオフィスが融合した、次世代の新しい建築を目指したプロジェクトである。現在工事中の隣接街区と共同で芸術文化拠点を形成し、エリアマネジメントにより地域活性化・賑わいづくりの核となることが計画されている。

著しく特徴的なのは基準階平面である。通常は避難計画上の課題から階段などが事務室側に残るが、ここでは貸方基準にてレイアウトの方針を共有することにより、コアが完全に片寄せされた明快なワンサイドコアが成立している。内部に柱がなく三方が柔らかな外光に満ちたオフィス空間は、廊下を設けない専有/共用一体の回遊型オープンス

ペースとなっている。上層部の事務室にはスキップフロア状に屋上庭園が組み込まれており、超高層でありながら身近に緑と風を感じる豊かな空間が実現されている。

事務室階を覆う外装ルーバーは「光のカーテン」として、コンピュータシミュレーションにより日射制御・自然光の拡散導入のほか多様なパラメーターを方位ごとに最適化した、これまでにない統合的な形状となっている。自然換気などの建築的手法と設備技術により高い環境性能を実現し、上層部の屋上庭園もバイオフィリックデザインとして被験者実験により知的生産性の向上が検証されている。

一方、美術館は通りを臨む繊細なスチールカーテンウォールのロビーを起点とし、展示空間は立体的に構成され、外光の入る休憩スペースや、大きな作品を収める吹抜けなど、変化に富んだ空間のシークエ

スとなっている。なかでも屏風を収納・展示する光量を抑えた空間では一五匹のミュージアムガラスは、その大きさから外装取り付け後では設置できないため、躯体の段階で先行して海外から搬入し、作業区画へ仮置きして保管するという柔軟な工程が組まれた。

工事においては深さ二六匹の大深度掘削、基礎マスコンクリート、ロングスパン鉄骨などこれまでにならぬ高難易度の工事に取り組み、プレキャストコンクリート化による工業化などにより更なる高品質の追求がなされている。

外装ルーバーの延長が円弧状に

切り取られた外観は周辺の四角い超高層群に比してスタイリッシュである。この個性的な外観の内側にはメンテナンス用のバルコニーが仕込まれ、窓清掃やシールのメンテナンスなどが日常的に可能になっている。エネルギー消費に関する運転性能検証と運用改善を継続する試みや、モバイル機器による空調・照明WEBシステムの導入など維持管理の面でも多いに新規性がみられる。全体的にハードとソフトの完成度が非常に高く随所に技術とデザインが融合した先進性があり、これまでもと一線を画す超高層建築の未来形が実現している。

ミュージアムタワー京橋 概要

- 所在地 東京都中央区京橋1-7-2
- 建築主 (株)永坂産業、(公)石橋財団
- 設計者 (株)日建設計
- 施工者 戸田建設(株)
- 竣工日 2019年7月1日

- 敷地面積 2,814㎡
- 建築面積 2,213㎡
- 延床面積 41,830㎡

- 階数 地上23階、地下2階、塔屋2階
- 構造 鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造(免震)



詳細や他の写真などは左記のQRコードからWebページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2021 第62回BCS賞受賞作品》 有明体操競技場/大宮区役所・大宮図書館/軽井沢風越学園/The Okura Tokyo/大倉集古館/渋谷ストリーム/昭和電工(大分県立)武道スポーツセンター/大丸心齋橋店本館/高崎芸術劇場/知立の寺子屋/日本橋室町三井タワー/日本橋スマートエネルギープロジェクト/東大阪市文化創造館/福田美術館/松原市民松原図書館 「読書の森」/ミュージアムタワー京橋/ミラion(長崎県立長崎図書館、大村市立図書館、大村市歴史資料館)

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2021年で62回を数えました。